

スマートウェルネスみしまアクションプラン 案

パブリック・コメント用

ご意見の募集期間

平成 24 年 12 月 12 日（水）～平成 25 年 1 月 11 日（金）

三島市

スマートウェルネスみしま アクションプラン

(平成 25～27 年度)



平成 2 4 年度 三島市

市長あいさつ

目 次

序章	1
はじめに	3
第1章 背景と課題	5
1 スマートウエルネスみしまに係る背景の把握	6
第2章 スマートウエルネスみしまの基本方針	19
1 「スマートウエルネスみしま」の基本的考え方	20
2 「スマートウエルネスみしま」の将来像と取組み方針	22
3 「スマートウエルネスみしま」の施策の体系	25
第3章 スマートウエルネスみしまのコアプロジェクト	29
1 コアプロジェクトについて	30
2 コアプロジェクトの内容	32
資料編	47

序 章

はじめに

これまで三島市では、平成元年に「健康都市宣言」を行い、「健康みしま21」を策定するなかで、生活習慣病予防をはじめとする疾病対策、市民が主体的に取り組む健康づくりや地域、グループで支えあう健康づくりへの支援に努めてきました。

また、平成21年3月には「食育推進都市宣言」を行い、市民が自らの食を考え、食に対する知識や選ぶ力を身に付けられるよう、産・官・学・民の「協働」により、あらゆるライフステージにおける食育活動を推進し、市民が生涯にわたり健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるまちづくりを進めています。

しかしながら、人口減少や少子高齢化など社会情勢の変化が急速に進むとともに疾病構造も様変わりし、生涯を通じて自立した生活ができる健康寿命の延伸に向けて、年齢層に応じた生活習慣病予防や介護予防、心の健康の保持など新たな健康に関する施策はもとより、健康と密接な関係のある社会環境の変革にまで踏み込んだ総合的な健康政策の構築が急務となってきています。

このような状況の中、三島市では、あらゆる分野に健康の視点を取り入れる「スマートウェルネスシティ構想」による“健幸”都市づくりに積極的に取り組んでいくことになりました。

スマートウェルネスシティ構想とは、「ウェルネス（健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること）」をまちづくりの中核に位置づけ、保健・医療分野だけで個人の健康増進を図るのではなく、生活環境や地域社会、学校や企業など、あらゆる分野を視野に入れた取り組みにより、都市そのものを健康にすることで、市民が自然に健康で豊かになれる新しい都市モデルを構築しようとする考え方です。

三島版のスマートウェルネスシティ構想である「スマートウェルネスみしま」プロジェクトでは、地域の担い手である市民が主体的に健康維持・社会参加する仕組みづくりを推進し、少子高齢社会においても持続可能な都市づくりと地域の活性化を図っていくことを目標としています。また、従来、縦割りで行われてきた健康政策を市民、NPO、事業者と行政が協働で進め、市民全体に浸透する多面的な健康政策に転換していくことも重要視しています。

こうしたなか、スマートウェルネスみしまの取り組みの方向性を示す指針として、また、新たに実行していく事業の位置づけを図るため、本アクションプランを策定しました。

第1章

背景と課題

1 スマートウェルネスみしまに係る背景の把握

1) 人口に係る背景

(1) 総人口・世帯数・世帯人員の推移と予測

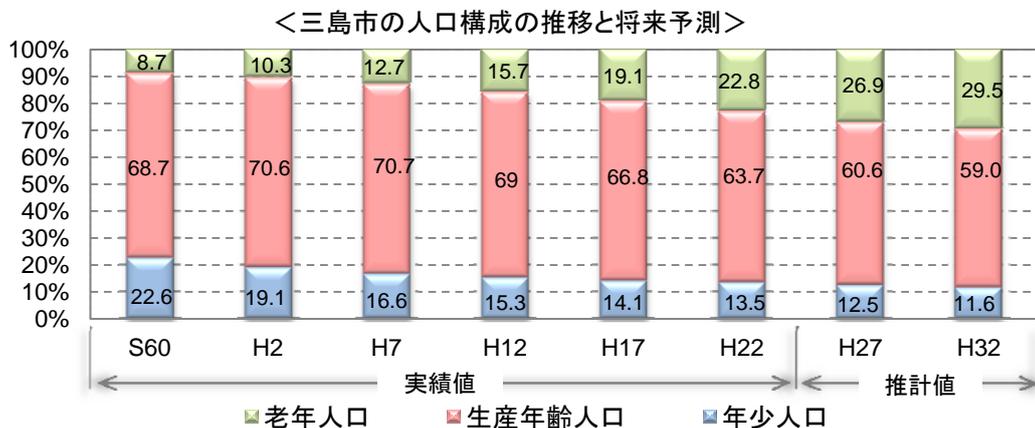
総人口の推移と予測を見ると、平成 17 年の 112,241 人をピークに、平成 22 年には減少に転じています。その後も減少が続くと予測されています。

人口が減少に転ずる一方で、世帯数は年々増加傾向にあり、核家族化、夫婦のみ世帯や単身世帯が増加していることを示しています。



(2) 人口構成の推移と予測

少子高齢化が進み、65 歳以上の人口は平成 32 年には約 3 割になると予想されています。人口構造の変化に応じた各種施策が求められます。



資料:以上 実績値 国勢調査推計値 政策企画課

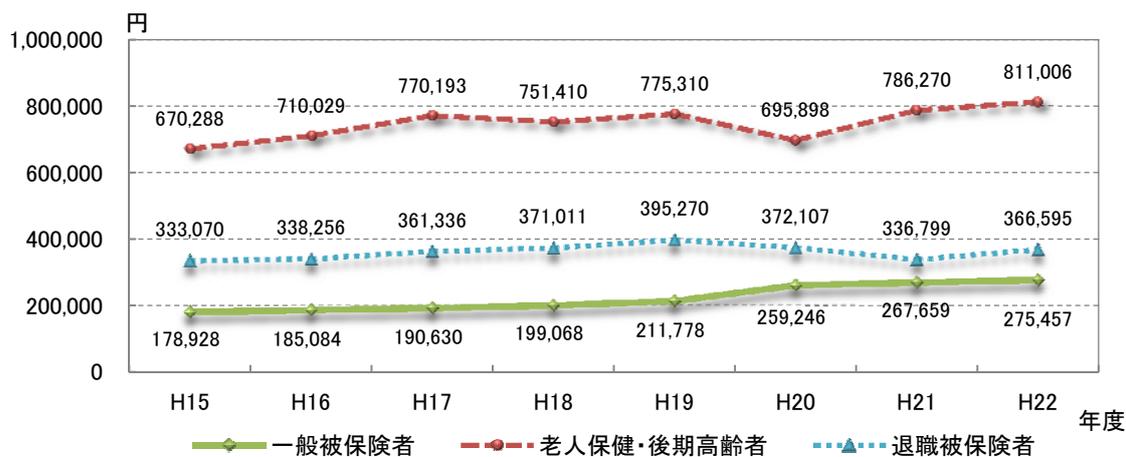
2) 健康づくりに係る背景

(1) 医療費

加入種別1人当たりの医療費を見ると、老人保健・後期高齢者にかかる医療費が群を抜いて多いことがわかります。

一方、一般被保険者の医療費も年々増加しつつあり、このままでは、保険、医療及び年金制度等の社会システムに深刻な問題が生じ、国及び地方自治体の財政を圧迫していくことが予想されます。

＜三島市の国民健康保険等及び後期高齢者医療制度加入種別1人当たりの医療費の推移＞



平成20年度に後期高齢者医療制度が開始

資料:三島の統計

(2) 65歳からの平均自立期間（お達者度）

65歳から介護を受けたり病気で寝たきりになったりせず、自立して健康に生活できる期間（要介護度2～5にならない期間）をあらわしたものが「お達者度」です。

男性については静岡県 averages よりも良い数値となっているものの、高齢化率の上昇とともに増加傾向にある医療費の抑制する必要性や、高齢者にも地域貢献など、可能な限りの様々な社会的役割が求められる中、お達者度の延伸に向けた施策が重要となっています。

	65歳からの平均自立期間(年数)	
	男性	女性
三島市	17.55	20.56
静岡県	17.30	20.68

資料:平成24年静岡県知事記者会見資料
(静岡州市町別65歳の平均自立期間について)

*平成24年度調査時点

*要介護度2～5でない状態を「自立している(お達者である)」と定義して、市町別に健康な期間を求めている。

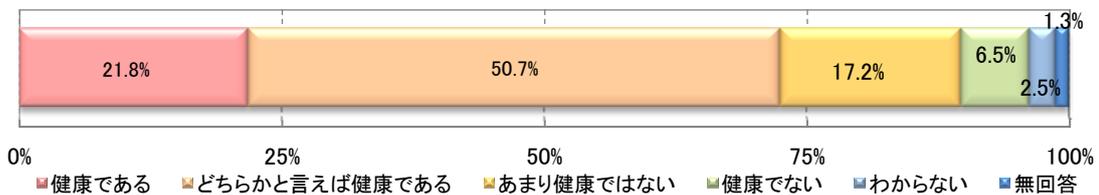
(3) 心身の健康

三島市市民意識調査（平成 24 年）において、健康状態について確認したところ、あまり健康でない（17.2%）、「健康でない」（6.5%）を合わせた“健康でない”は 23.7%となっています。

また、三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成 23 年）によると、男女とも半数以上が、何らかのストレスを感じていることが分かり、特に 20～50 代の仕事や家庭で責任が重い世代に、ストレスを感じる人が多くなる傾向にあります。

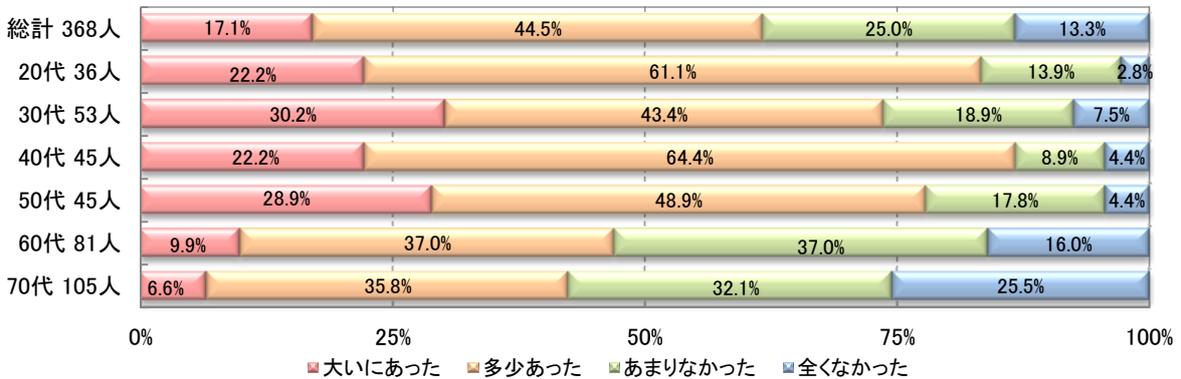
今後、心身ともに“健康である”市民の増加を図るためには、様々なライフスタイルに対応する多様な分野で健康づくりを進めることが求められます。

<市民の健康状態の意識>

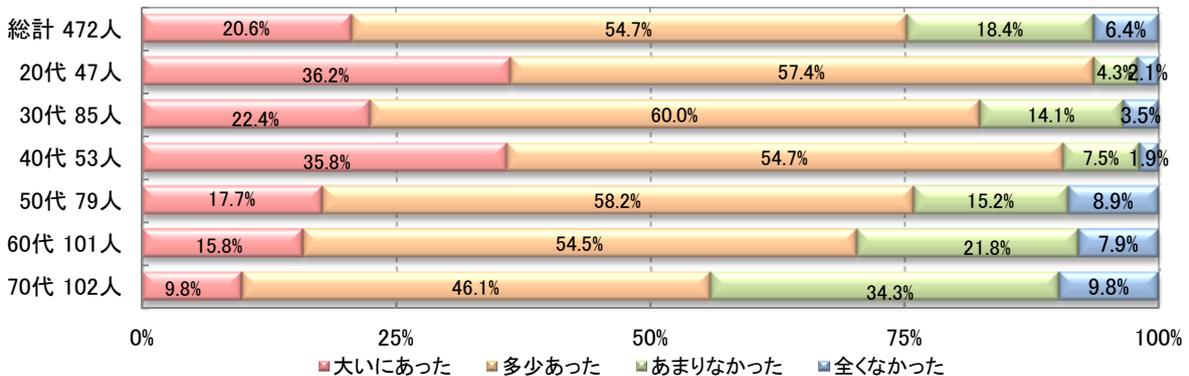


資料：三島市市民意識調査(平成 24 年)

<市民が 1 か月に感じたストレス：男性>



<市民が 1 か月に感じたストレス：女性>

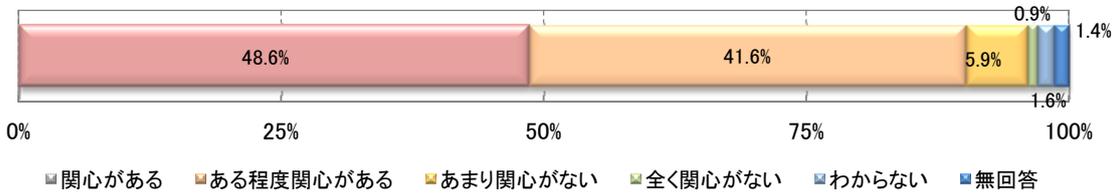


資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成 23 年）

(4) 健康づくりへの関心度と運動実施状況

三島市市民意識調査（平成 24 年）において、健康づくりへの関心度について確認したところ、「関心がある」（48.6%）、「ある程度関心がある」（41.6%）を合わせた“関心がある”は 90.2%となっています。

＜市民の健康づくりへの関心度＞



資料：三島市市民意識調査（平成 24 年）

三島市市民意向調査（平成 24 年）における運動頻度の調査結果を比較すると、1 週間に 1 回以上行っている、いわゆる日常的な運動をしている人の割合は 48.2%となっています。

＜市民の運動頻度＞



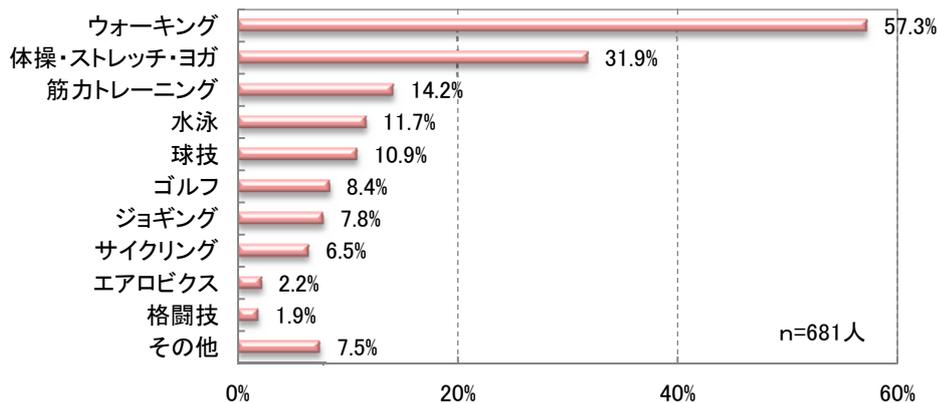
資料：三島市市民意識調査（平成 24 年）

健康づくりにはある程度の関心を持っているが、日常的に運動している方の割合は低い結果になっています。また、運動を行わない理由としては「時間がない」（36.5%）、「行るのが面倒」（33.4%）となっていることから、仕事や家庭の事情などにより健康づくりや運動をすることができない市民のための新たな仕組みづくりや、健康づくりや運動を思わず行う、また楽しくなるような仕掛けづくりを検討することが求められます。

(5) 市民の好む運動・スポーツ

気軽にはじめられ特別な施設を必要としないウォーキング・体操等が多くの市民が望む運動・スポーツであるという結果となっています。歩道の整備をはじめ歩きやすい環境づくりなど、歩いて暮らせるまちづくりの推進が必要とされています。

＜市民が実践している運動、実践したい運動＞



資料：三島市健康と生活習慣に関するアンケート調査（平成 23 年）

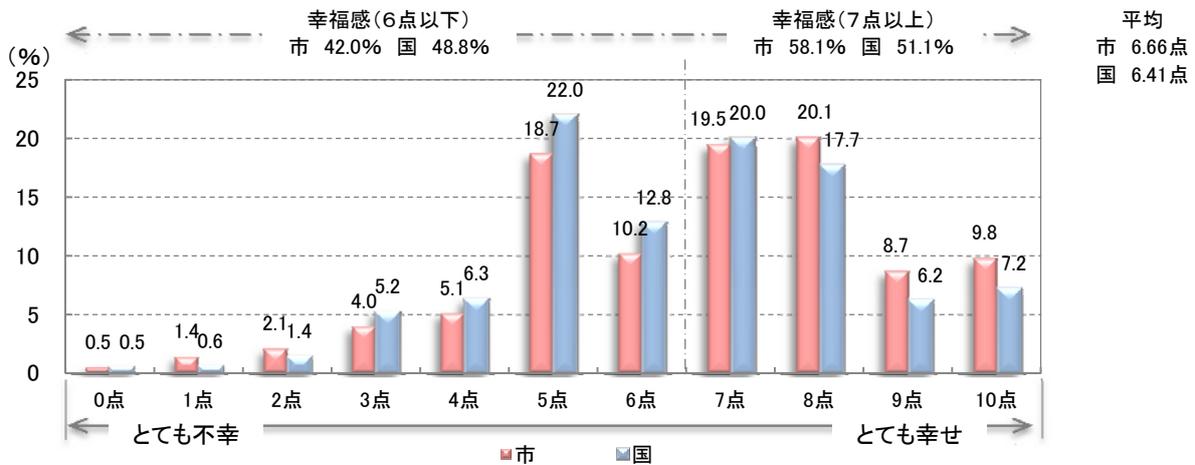
3) いきがい・きずなづくりに係る背景

(1) 幸福度

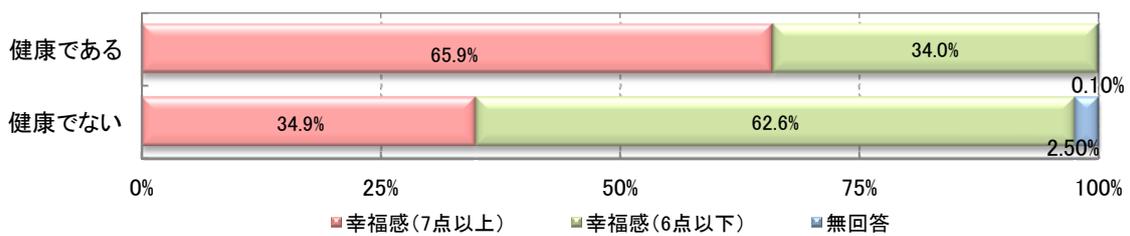
「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思うか？という幸福感について国の調査と三島市民意識調査（平成24年度）を比較したところ、幸福感7点以上の割合は国51.1%、市58.1%と三島市の方が7ポイント高くなっています。さらに、健康である人や健康に関心がある人の方が、より幸福と感じていることが分かります。

また、幸福感を判断する際に、三島市では健康面を重視する人の割合が国に比べて高いことが分かります。

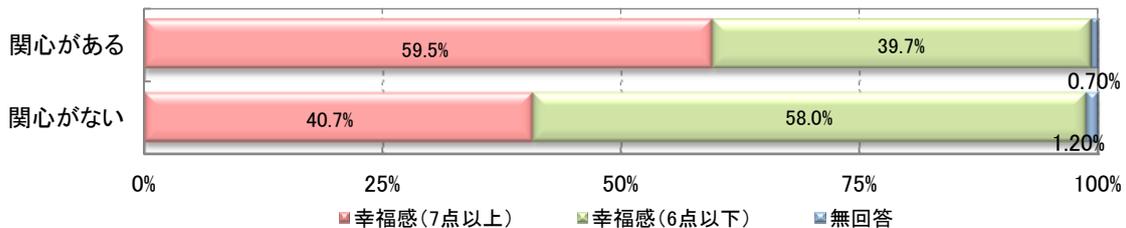
＜三島市と国の幸福感の比較＞



＜市民の健康状態別の幸福感＞



＜市民の健康づくりへの関心度別の幸福感＞



資料：以上三島市市民意識調査（平成24年）

<幸福感を判断する際に重視した事項>

項目	市		国	
	割合(%)	順位	割合(%)	順位
健康状況	60.2	1	62.1	2
家族関係	59.8	2	61.3	3
家計の状況(所得・消費)	52.0	3	62.2	1
精神的なゆとり	39.2	4	51.4	4
友人関係	31.3	5	35.4	6
就業状況(仕事の有無・安定)	26.9	6	35.5	5
自由な時間	26.3	7	34.3	7
趣味、社会貢献などの生きがい	23.4	8	22.6	9
充実した余暇	19.3	9	24.2	8
仕事の充実度	15.7	10	21.5	10
職場の人間関係	11.0	11	14.3	11
地域コミュニティとの関係	10.8	12	10.2	12
無回答	1.9	13	0	13

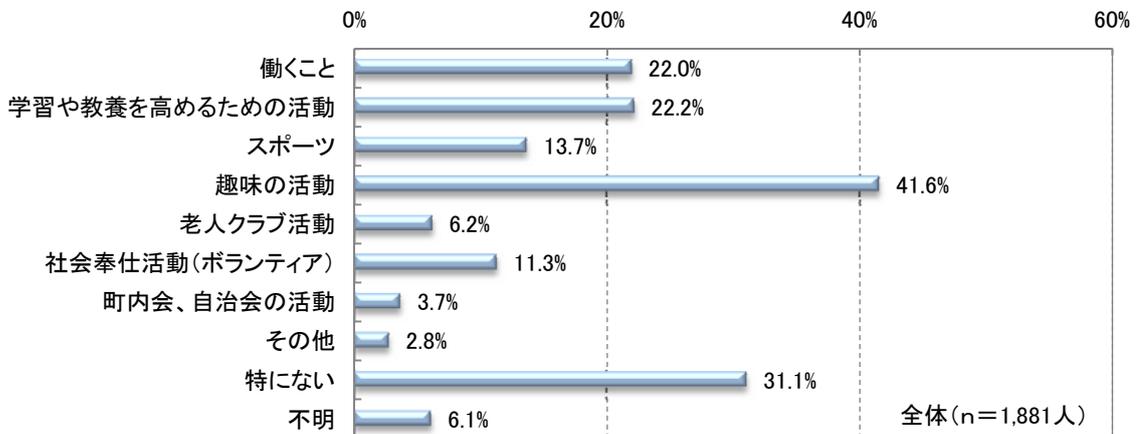
資料:三島市市民意識調査(平成24年)
国民生活選好度調査(平成23年度)

(2) 高齢者のいきがい

今後やってみたい活動は、「趣味の活動」(41.6%)が最も高く、次に「特にない」(31.1%)となっています。その他では「学習や教養を高めるための活動」(22.2%)、「働くこと」(22.0%)となっています。

「特にない」の回答が減少するよう、全ての高齢者がいきがいを感じることができる活動を実践できるような施策の検討が求められます。

<三島市の高齢者がやってみたい活動>



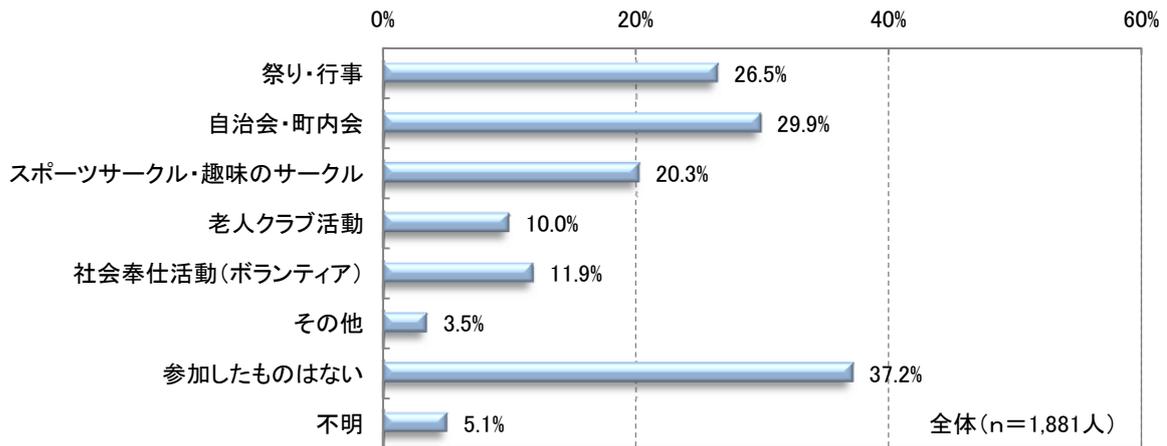
資料:高齢者実態調査(平成22年度)

(3) 高齢者の地域活動参加状況

この1年間に参加したことがある地域活動については、「参加したものはなし」(37.2%)が最も多くなっています。参加した内容では、「自治会・町内会」(29.9%)、「祭り、行事」(26.5%)、「スポーツサークル・趣味のサークル」(20.3%)となっています。

高齢者が多様な場と機会、積極的に地域活動に参加できるような環境づくりが求められます。

＜三島市の高齢者の地域活動参加状況＞

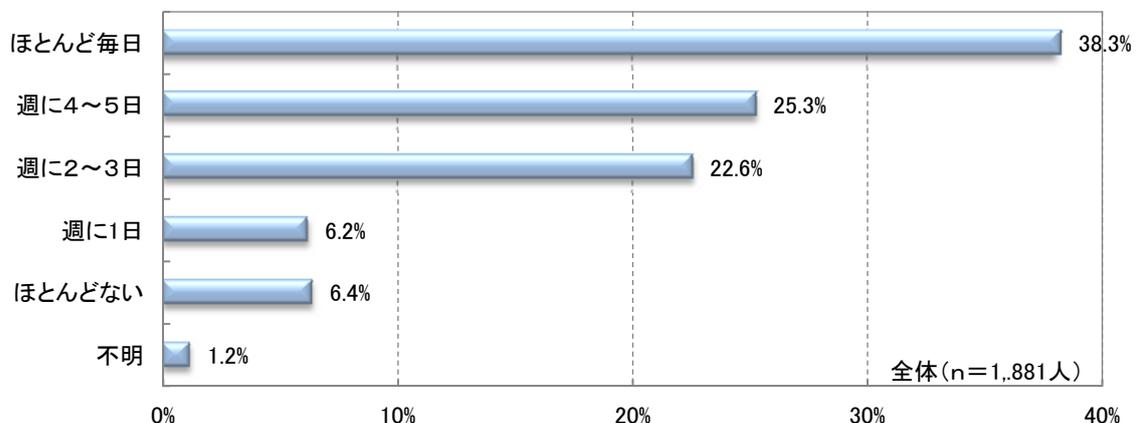


資料: 高齢者実態調査(平成 22 年度)

(4) 高齢者の外出頻度

高齢者の外出頻度はほとんど毎日と週に4～5日を合わせると63.6%となります。一方で、ほとんど外出しない人、週に1日しか外出しない人を合わせると12.6%にのびます。地域コミュニティや趣味・サークル活動などを通じて、社会とつながりを保ち、人と接する機会を持つことは、脳と身体の活性化や健康づくりに大きな効果があります。このため、閉じこもり傾向にある人に対する社会参加の支援や、その受け皿づくり等が今後の課題となります。

＜三島市の高齢者の外出頻度＞



資料: 高齢者実態調査(平成 22 年度)

(5) 歩いて暮らせる環境・基盤

市の施策に対する満足（充実）度については「広報みしまによる市政情報の提供」「公園・水辺空間の整備」の満足度が高くなっていますが、不満足施策の上位に「歩道の整備」、「生活道路の整備」や「バスなどの公共交通の充実」といった、歩いて暮らせる環境・基盤に関する項目があげられています。

安心・安全な歩道、生活道路の整備とともに、乗り換えの円滑化や路線の拡充などを含めた公共交通体系の充実が求められています。

不満率上位 5 項目

順位	項目	不満率 (%)
1	歩道の整備	42.5
2	にぎわいのある商業・商店街づくり	39.8
3	生活道路の整備	38.6
4	バスなどの公共交通の充実	33.6
5	三島駅周辺(北口・南口)の整備	32.5

資料: 三島市市民意識調査(平成 24 年)

4) 地域活性化・産業振興に係る背景

(1) 農業

市内の総農家数、販売農家数ともに減少を続けています。近年は、農業を生業としている販売農家比率も減少しており、平成22年は約60%程度です。また耕地面積も減少を続けています。

こうした中、健全な土地利用、地域産業の活性化、さらに地産地消による安全・安心な食材の供給の重要性の高まりなどから、新たな農業振興策が求められています。

《農家数と農家人口等》

年次	総農家数 (戸)	販売農家				農家人口 (人)
		総数(戸)	専業農家数 (戸)	第1種 兼業農家数 (戸)	第2種 兼業農家数 (戸)	
昭和40年	1,967		589	644	734	12,396
45	1,803		473	517	813	10,546
50	1,548		308	394	846	8,573
55	1,472		294	366	812	8,011
60	1,412		277	320	815	7,496
平成2年	1,254		237	226	791	6,698
7	1,199		202	228	769	6,210
平成12年	1,096	792	167	170	455	5,516
17	1,024	634	183	119	332	3,061
22	966	592	139	149	304	2,682

※平成7年までの専業・兼業農家は「総農家」、平成12年以降は「販売農家」のみの数値

※平成12年までの農家人口は「総農家」、平成17年以降は「販売農家」のみの数値

資料：各年次2月1日現在農林業センサスより

《耕地面積》

年次	田(ha)	畑(ha)	樹園地(ha)
	計	計	計
昭和40年	686	911	41
45	592	741	36
50	496	654	41
55	439	570	37
60	412	528	32
平成2年	403	458	28
7	366	437	35

年次	総農家 耕地面積 (a)	販売農家耕地面積			
		小計 (a)	田(a)	畑(a)	園地(a)
			計	計	計
平成12年	76,042	70,164	29,364	37,834	2,966
17	67,251	59,935	24,475	33,136	2,324
22	65,421	58,387	22,125	33,917	2,345

※平成12年次から分類方法が変更された。

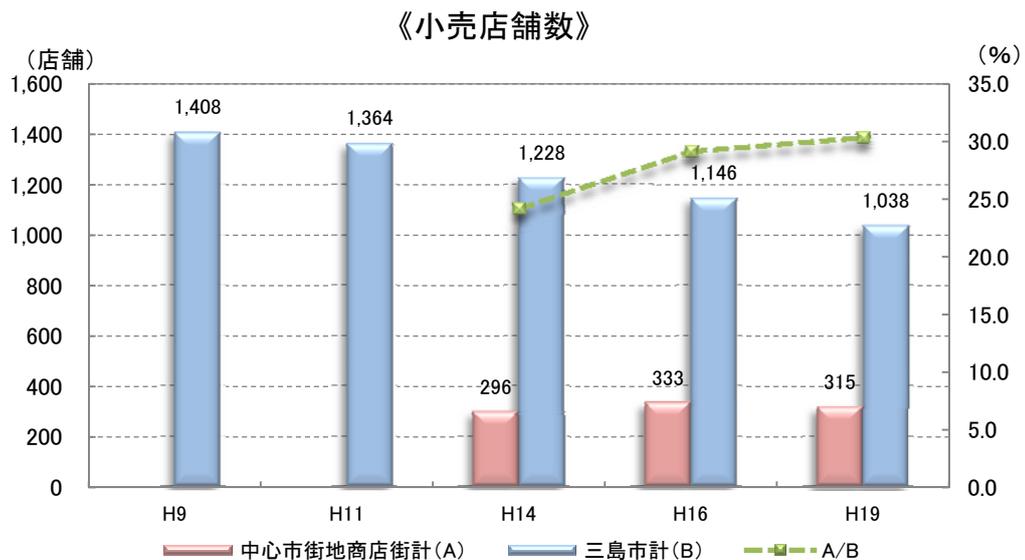
資料：各年次2月1日現在農林業センサスより

(2) 商業

市内の小売店舗については店舗数、従業者数、年間商品販売額いずれも減少傾向にあります。また、中心市街地における店舗数、従業者数、年間商品販売額も減少傾向が見られます。

その一方で、平成24年度市民意識調査による市の施策での不満項目の2位に「にぎわいのある商業・商店街づくり」があげられ、中心市街地のにぎわいを求める声は高いと言えます。

市民が積極的に外出し、人とふれあう健全な社会環境を構築するために、中心市街地の商業の活性化のための施策の展開が求められます。



資料: 商業統計調査



資料: 商業統計調査

(3) 工業

市内の工業について、事業所数、従業者数、製造品出荷額は総じて減少傾向にあり、工業活性化のための施策の推進が求められます。

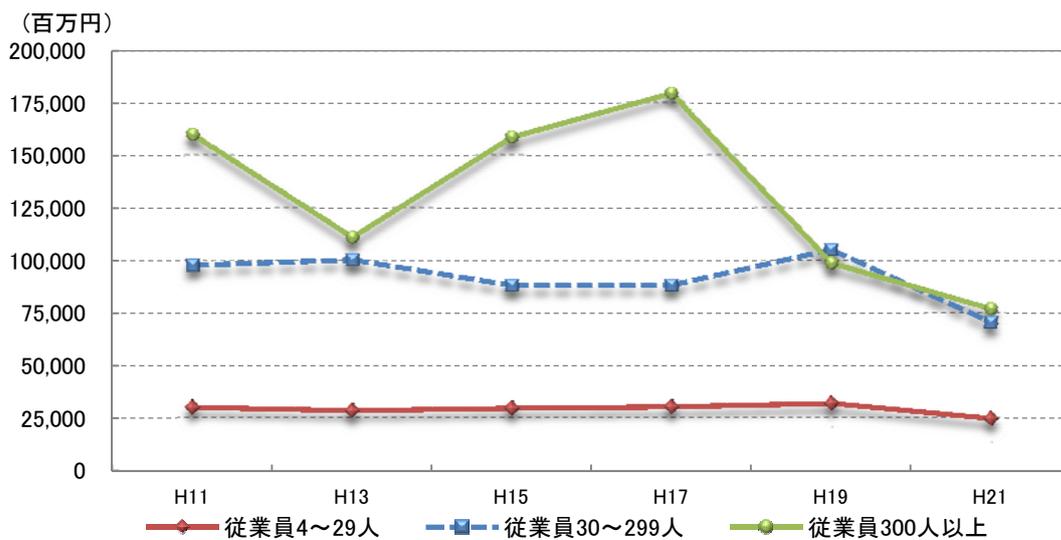
少子高齢化が進む中、成長産業と言われる医療健康産業の振興を図るため、静岡県フェアマバレープロジェクトとも連携した産業振興方策の検討が求められます。

《事業所数、従業者数の年次推移（全事業所）》



資料：各年 12 月 31 日現在工業統計調査

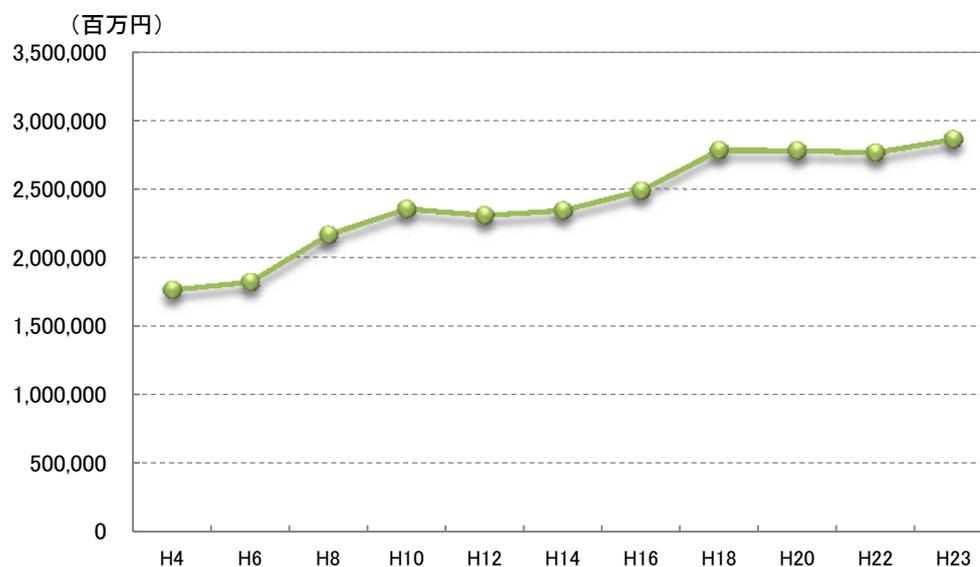
《従業者規模別製造品出荷額等総額（従業員 4 人以上）》



資料：各年工業統計調査

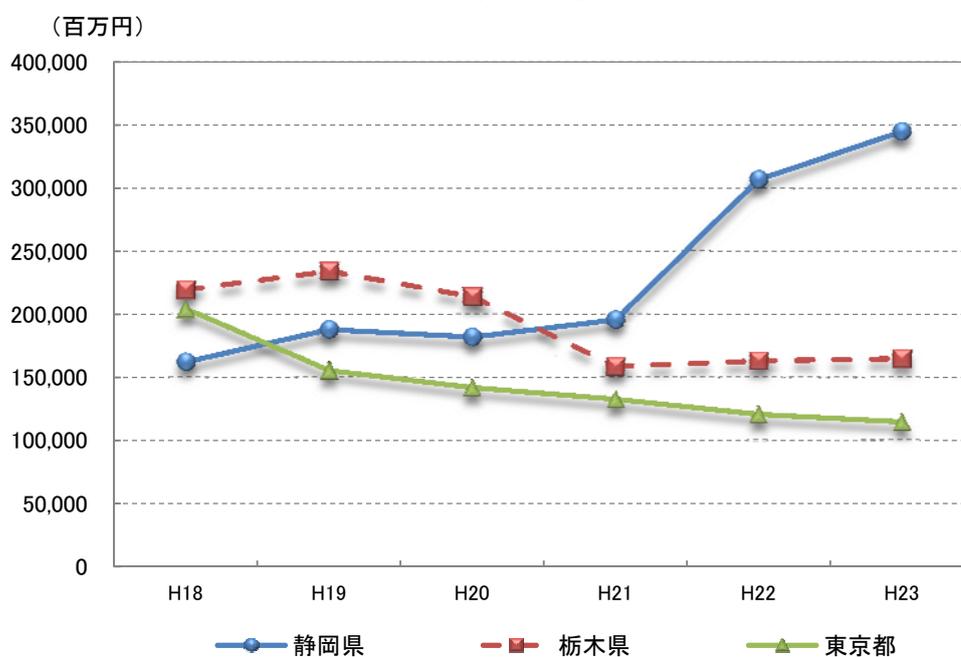
(4) 医療産業

《全国医療機器生産額の推移》



資料:薬事工業生産動態統計年報(平成 22 年度)

《都道府県（上位3県）医療機器生産額の推移》



資料:薬事工業生産動態統計年報(平成 22 年度)

第2章

スマートウェルネスみしまの基本方針

1 「スマートウェルネスみしま」の基本的考え方

健やかで幸せに暮らせるまちを目指す「スマートウェルネスみしま」の基本的考え方は、次のとおりです。

～“健幸”都市づくりのために～

少子高齢化など様々な課題に対応し、市民の健康づくりを進めていくためには、市民一人ひとりの健康づくりに関する考え方と行動のあり方を変えると同時に、社会環境の改善を進めることを通して、市民生活と社会環境の両者の質を向上させていくことが大切です。

このため、直接的な市民の健康づくりとしての生活習慣病予防や介護予防に着実に取り組んでいくことに加え、より広い視野に立ち、あらゆる世代の健やかな心身と暮らしを支える市民の生活環境、社会環境を創っていく必要性が高まってきています。

今後、三島市では、「スマートウェルネスみしま」の推進を通じて、保健・医療分野から個人の健康増進を図ることに加え、生活環境や地域社会、学校や企業など、あらゆる分野を視野に入れた取り組みにより、都市そのものを健康にし、市民一人ひとりが「健やかで幸せ」と感じられる“健幸”都市を目指します。

① 多様な分野に“健幸”の視点を取り込む

市民生活が多様な行動、活動によって構成されていることを踏まえると、あらゆる分野で“健幸づくり”に配慮していくことが必要です。

スマートウェルネスみしまの取り組みは、「健康づくり」の分野だけに留まらず、誰もが地域社会に参加するための「いきがい・きずなづくり」の分野や、賑わいや活力を創出するための「地域活性化、産業振興」の分野を統合して、必要な施策の推進を図ります。

② 市民、NPO、事業者、行政が協働でスマートウェルネスみしまを推進する

効果的かつ効率的にスマートウェルネスみしまの取り組みを進めて行くためには、市民、NPO、事業者、行政が協働で取り組むことが不可欠です。

市民、NPO、事業者がスマートウェルネスみしまの主旨と理念に理解を深め、積極的に参画するとともに、主体的に行動できるよう、行政は地域や各種団体、企業、周辺自治体などと連携し、スマートウェルネスみしまの推進に必要な環境づくりや仕組みづくりを進めます。

③ 長期的かつ継続的にスマートウェルネスみしまに取り組む

スマートウェルネスみしまが目指す“健幸”都市は、一朝一夕で創りあげることができるものではなく、長い時間が必要であり、継続的に進める必要があります。

そのために、本市の将来像や市域を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、長期的な視点で必要な施策の検討を進め、さらにその効果や達成度を検証しつつ、必要に応じて施策の見直しを行うなど、PDCAサイクルに基づいた取り組みを進めます。



2 「スマートウェルネスみしま」の将来像と取り組み方針

1) 将来像

「スマートウェルネスみしま」の将来像を次のように掲げます。

～健やかで幸せな“健幸都市”みしま～

健康で幸せな人々が暮らす 活気に満ち溢れた都市を
市民総参加でつくる

2) 取り組み方針

本市の背景及びスマートウェルネスみしまに係る課題を踏まえつつ、将来像を達成するための具体的な取り組み方針を整理すると、次のように大別できます。

- ① 健康づくり
… 市民が健康に生活していくための核となる取り組み
- ② いきがい・きずなづくり
… 人とふれあい、健康で幸せに暮らしていくための大切な取り組み
- ③ 地域活性化・産業振興
… 健康づくりやいきがいきずなづくりを守り支えるための基盤づくり
- ④ 総合
… ①～③全てに係る横断的かつ総合的な取り組み

これらの取り組み方針は、健康づくりが核となり、さらにいきがい・きずなづくりが幸せを足し合わせ、地域活性化・産業振興がそれらを守るように取り囲む、“たまご”のような構造の関係性がイメージできます。

このようなことから、取り組み方針の全体を“健幸都市みしまのたまご”と呼び、このたまごを育て、“スマートウェルネスみしま”を産みだすイメージで、取り組みを実践していきます。



① 健康づくり

－市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくり－

“健幸”都市の創造のためには、健康に関心のある層や、健康面に課題のある市民への対応に留まらず、健康づくりに関心の低い層も引き込むような環境づくりが必要です。

全ての市民を対象とした生活習慣病予防、介護予防をはじめとするあらゆる領域における健康づくり施策に加え、特に食と運動・スポーツによる取り組みを進めていきます。

こうした取り組みによる“治療から予防への転換”を通じて、市民の健康寿命・65歳からの平均自立期間（お達者度）の延伸を目指し、ひいては社会保障関係費の増加の抑制を目指していきます。

<具体的な取り組み方針>

■みんなで健康づくり

- ・市民の健康維持増進のために、市民の健康状態や健康維持に係る課題を整理・分析し、科学的根拠をふまえた新たな健康施策を推進します。

■ウォーキング・スポーツの環境づくり

- ・誰もが自発的に、かつ楽しみながらウォーキングをはじめとする運動・スポーツを実践できる環境整備や仕組みづくりを推進します。

<将来目標>

65歳からの平均自立期間（お達者度）の延伸

現状値 (平成21年数値反映)	平成30年公表 (平成27年数値反映)	平成33年公表 (平成30年数値反映)	平成36年公表 (平成33年数値反映)
男性：17.55 女性：20.56	男性：18.1 女性：20.9	男性：18.5 女性：21.3	男性：19.1 女性：21.7

② いきがい・きずなづくり

－生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくり－

全ての市民が、心身ともに健康で生きがいあふれる生活を送るためには、積極的に社会参加ができる環境の構築が大切になります。地域社会や人との交流の場と機会を創出することにより、生きがいあふれる豊かなこころの育成に努めます。また、歩いて暮らせるまちづくりを実現する、歩きやすい道づくり、公共交通の充実などにより、健康づくりを推進します。このように、社会環境の変革を通じた“健康づくりと地域づくりの好循環”を実現します。

<具体的な取り組み方針>

■いきがい・きずなづくり

- ・誰もが容易に地域社会の中で活動し、その活動を通じて人と人のきずなを深めることができる環境整備や仕組みづくりを進めます。

■歩いて暮らせるまちづくり

- ・誰もが安全で楽しく生活できるよう、基盤整備や公共交通の充実を図ります。

<将来目標>

幸福感 10 段階で 7 以上の割合（市民意識調査）

平成 24 年度(現状)	平成 27 年度	平成 30 年度	平成 33 年度
58.1%	61.06%	64.02%	67.0%

③ 地域活性化・産業振興

－持続可能な“健幸”都市づくり－

“健幸”都市づくりは、長期的な視点で構築する必要があるとともに、“健幸”都市自体が、持続的に維持、発展できるものである必要があります。そのためには、本市の中心市街地活性化や商店街の振興、さらに周辺市町と連携した観光振興など、地域の活性化方策を推進することが求められます。また、医療健康産業を中心とした産業振興を進め、地域経済の活性化を図ることも必要です。

これらの施策を通じて、地域社会全体が活性化することにより好循環を生み出し持続可能な“健幸”都市づくりを目指します。

<具体的な取り組み方針>

■活力・にぎわいづくり

- ・活力とにぎわいある地域づくりのために、多主体との連携により観光振興のための施策やにぎわい創出に係る施策を推進します。

■持続可能なまちづくり

- ・医療産業の活性化や農林業の振興等、「スマートウェルネスみしま」にふさわしい産業振興による地域経済の活性化のための施策を推進します。

<将来目標>

成長力・民力度全国都市ランキング（東洋経済 都市データパック）

	平成 24 年公表	平成 27 年公表	平成 30 年公表	平成 33 年公表
成長力	403 位	350 位	300 位	250 位
民力度	239 位	200 位	170 位	150 位

※対象 全国 784 市（783 市＋東京区部全体 平成 24 年版ランキング時）

●成長力 11 指標を原則 5 年前と比較し増減率をもとに都市の“伸び”を指数化

- ①人口 ②世帯数 ③事業所数 ④従業者数 ⑤製造品出荷額等
- ⑥卸売業年間販売額 ⑦小売業年間販売額 ⑧新設住宅着工床面積
- ⑨乗用車＋軽乗用車保有台数 ⑩課税対象所得額 ⑪地方税収入額

●民力度 人口・世帯当たりの 7 指標をもとに都市の“厚み”を指数化

- ①事業所数／人口 ②製造品出荷額等／人口 ③卸売業年間販売額／人口
- ④小売業年間販売額／世帯 ⑤新設住宅着工戸数／世帯
- ⑥課税対象所得額／世帯 ⑦地方税収入額／人口

3 「スマートウェルネスみしま」の施策の体系

「スマートウェルネスみしま」の将来像を達成するために、取り組み方針に基づき、多様な施策を進めていきます。

これらの施策を取り組み方針の4つの施策に基づき、次の4つに大分類します。

《取り組み方針に基づく4つの柱》

- ① 総合的な取り組み
- ② 市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくりの取り組み
- ③ 生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくりの取り組み
- ④ 持続可能な“健幸”都市づくりの取り組み

4つの柱毎の施策の体系は次のとおりです。

※網掛けの事業は「コアプロジェクト」として位置づけ、次章で詳細を紹介しています。
番号はコアプロジェクトの番号になります。

① 総合的な取り組み

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み
共通	共通	ポイント制度	健幸マイレージの実施(No.1)
		ソフト開発	健幸まち歩きアプリケーションの開発(No.2)
		事業提案コンペ	協働のまちづくり事業提案コンペの実施(No.3)

② 市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくりの取り組み

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み	
科学的根拠に基づく健康づくり施策の推進		市民の健康状態・健康課題の分析と新たな健康施策の実施	医療費等分析	
			個別健康支援プログラムの実施(No.5)	
予防を重視した健康づくり	母子の健康づくり		妊婦健診・乳幼児健診の実施	
			各種予防接種の実施	
			赤ちゃん訪問・家庭訪問の実施	
			各種健康教育・相談の実施	
			各種食育講座・教室の開催	
	生活習慣病予防	食育の推進		各種食育講演会・イベントの開催
				三島市民家族団らんの日の実施
				ヘルシーメニュー普及・健幸づくり推進店・食育認定店の拡大
				新たな大人の食育事業の推進(No.8)
				運動・スポーツの機会の充実
			スポーツスタート事業の実施	
			スポーツ団体支援	
			総合型地域スポーツクラブの充実	
			学校体育施設開放の実施	

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み	
		生涯スポーツの場の充実	総合運動公園の整備検討 長伏グラウンドの整備 健康器具の設置(北上・中郷文化プラザ芝生広場)	
		ウォーキングの普及啓発	モデルコースマップ作成・配布 教室・サポーター養成講座の開催 各種ウォーキング大会の実施 歩幅目安・スポーツ記録のペイントの実施(No.10) 他イベント等と連携したウォーキングイベントの開催(No.11)	
		各種健診・予防接種	特定健診・健康診査の実施 人間ドックの実施 各種がん検診の実施 歯周病検診の実施 集客施設等での健康チェックの実施(No.6) 各種予防接種の実施	
		健康教育・相談	各種健康講座・教室の開催 各種健康相談会の開催	
		健康づくりイベント	健康づくりイベントの開催(No.7)	
		協働による健康づくり	保健委員会活動支援 「けんこうたい」活動支援 各種団体・グループ活動支援	
		介護予防	介護予防普及啓発の実施 特定高齢者介護予防の実施 介護予防事業マップ作成 認知症予防の実施 各種介護予防講座・相談会の開催	
			情報発信	健康づくりコーナーの充実 スマートウェルネスみしま、健康づくりのポータルサイト開設 健康づくり情報の一元化(No.4) ウォーキング情報の発信(No.9)

③ 生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくりの取り組み

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み	
いきがい・きずなづくり	社会参加	いきがいづくり・生涯学習	団体・サークル支援 いきいきカレッジの実施 生きがいデイ教室の実施 公民館活動(各種教室・講座) 中央婦人学級の実施 みしま教養セミナーの実施 ハロー教授バンクの充実 老人福祉センター各事業の実施 寿大学の実施 女性まちづくり講座の実施 高齢者・団塊世代のいきがいの創出(No.15)	
			イベント開催	いきがい・きずなフェスティバルの実施(No.12)
			情報受発信	いきがい・きずなづくりの情報一元化(No.13)
			ボランティア活動の支援	市民活動センター各事業の実施 市民活動センター各事業の実施 ボランティア連絡協議会の開催
				就労支援

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み		
	地域交流	協働による地域づくり・きずなづくり	地域づくり市民会議の開催		
			子どもは地域の宝事業の実施		
			市民ポータルサイト・地域SNSの運営		
			エコリーダー活動会議の開催		
			ストップ温暖化推進協議会の開催		
			地域包括支援センター各事業の実施		
			地域安心サポーター養成講座の実施		
			認知症サポーター養成講座の実施		
			民生委員地域見守り活動の実施		
		シニア世代の交流促進	老人クラブ等の活動支援 街中ほっとサロンの運営		
	いきがい・きずなづくり支援	いきがい・きずなづくりの相談窓口開設 (No.14)			
歩いて暮らせるまちづくり	歩きやすいまちづくり	歩行者優先のまちづくり	道路構造条例等の制定		
			歩道等のユニバーサルデザイン化		
			電線類地中化(三島停車場線)の推進		
			案内サイン等の整備		
			安全・安心な歩道整備 (No.17)		
	歩いて楽しいまちづくり	ガーデンシティみしまプロジェクト	大通り花飾りの実施		
			美しま花緑おもてなし(商店街)事業の実施		
			公共花壇・地域花壇支援		
			ゴミ拾いツアーの実施		
					せせらぎ回遊ルートの活用
		エコガーデンプロジェクト	緑のカーテンづくりの推進		
			まちなかクールスポットマップの作成・活用		
		商店街景観整備	芝本町商店街ファサード整備		
		公園・緑地整備	三島駅北ロケットパーク整備 白滝公園整備		
		トイレ整備	トイレ環境の整備 (No.18)		
案内・サイン整備	ウォーキング案内サイン整備 (No.19)				
公共交通網の充実	コミュニティバス等の充実	自主運行バスの運営 (きたうえ号・ふれあい号・玉沢線)			
		100円バス(せせらぎ号・なかざと号)の支援			
	公共交通の利用促進	高齢者バス等利用助成			
		高齢者運転免許返納支援 公共交通の利便性向上・利用拡大策の検討 (No.20)			

④ 持続可能な“健幸”都市づくりの取り組み

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み
地域活性化	にぎわい創出・観光振興	中心市街地活性化・商店街振興	空き店舗対策事業費補助
			商店街イベント振興事業補助
			味しま食べ歩き推進事業
			せせらぎ一服処の活用
			地産地消・安全安心な食によるにぎわいづくり (No.21)
		観光戦略	せせらぎ・湧水の活用
			富士・箱根・伊豆との広域連携の推進
			スポーツツーリズムの実施 (No.22)
			三島の食による集客拡大
			伊豆半島ジオパークの活用
観光振興	自然資産の活用	せせらぎ・湧水の活用	
		富士山世界文化遺産の活用	

区分	分野	主な取り組み	具体的取り組み
		歴史・文化資産の活用	向山古墳群公園整備 三嶋大社・楽寿園等まちなか資産の活用 箱根西麓地域資産の活用
		新たな観光資源との連携	フルーツパーク、大つり橋の活用
産業振興	医療健康産業の振興	医療健康産業の集積(育成・誘致)	医療・健康関連企業調査 企業立地事業費補助 医療健康ビジネスの連携・融合(No.24)
		ファルマバレープロジェクトとの連携	ファルマバレー関連事業所等家賃助成 医看工連携ミシマの推進
		産業支援の拠点整備	産業支援拠点の整備(No.23)
		地場産品を活用した産業振興	市民農園 山田川自然の里、佐野体験農園の管理運営
		地産地消	地域農政地産池消推進事業費補助
		地場産品特産化	箱根西麓三島野菜のブランド化
		農商工連携・6次産業化	6次産業化創出事業費補助 農商工連携による地場産品の6次産業化(No.25)



第3章

スマートウェルネスみしまのコアプロジェクト

1 コアプロジェクトについて

第2章でとりまとめた「施策の体系」のうち、スマートウェルネスみしまの取り組みとして、シンボル性が高く、かつ重要な施策をコアプロジェクトとして抽出し、その内容を提示します。

取り組み方針毎のコアプロジェクトの内容は、次のとおりです。

① 総合的な取り組み

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
1	健幸マイレージ	健幸マイレージの実施
2	モバイルで健幸まち歩き	健幸まち歩きアプリケーションの開発
3	協働のまちづくり事業提案コンペ	協働のまちづくり事業提案コンペの実施

② 市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくりの取り組み

■みんなで健康づくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
4	健康づくり施策の見える化	健康づくり情報の一元化
5	科学的根拠に基づく個別健康支援プログラム	個別健康支援プログラムの実施
6	出張！健幸鑑定団 ～スマート健康チェックキャンペーン～	集客施設等での健康チェックの実施
7	健康づくりイベントの開催	健康づくりイベントの開催
8	大人の食育プロジェクト	新たな大人の食育事業の推進

■ウォーキング・スポーツの環境づくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
9	ウォーキング情報発信プロジェクト	ウォーキング情報の発信
10	スケールペイント	歩幅目安・スポーツ記録のペイントの実施
11	ウォーキングプラスワン	他イベント等と連携したウォーキングイベントの開催

③ 生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくりの取り組み

■いきがい・きずなづくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
12	いきがい・きずなフェスティバル	いきがい・きずなフェスティバルの実施
13	いきがい・きずなづくり 情報一元化プロジェクト	いきがい・きずなづくりの情報一元化
14	いきがい・きずなづくり コンシェルジュステーション事業	いきがい・きずなづくりの相談窓口の開設
15	「再」デビュープロジェクト	高齢者・団塊世代のいきがいの創出
16	女性と高齢者のチカラ活用プロジェクト ～就労支援～	女性と高齢者の就労支援の実施

■歩いて楽しいまちづくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
17	目指せ!健康!安全、安心なまちあるき!	安全・安心な歩道整備
18	快適な環境でレッツ街歩き!	トイレ環境の整備
19	歩道も健幸バロメーター	ウォーキング案内サイン整備
20	公共交通の利便性向上・利用拡大プロジェクト	公共交通の利便性向上・利用拡大策の検討

④ 持続可能な“健幸”都市づくりの取り組み

■活力・にぎわいづくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
21	地産地消のスマートウエルめしプロジェクト	地産地消・安全安心な食によるにぎわいづくり
22	スポーツツーリズム	スポーツツーリズムの推進

■持続可能なまちづくり

コアプロジェクトNo.	コアプロジェクト名称	具体的取り組み
23	産業支援ステーション 「M-Rise ～未来図～」プロジェクト	産業支援拠点の整備
24	医療健康ビジネスマッチング	医療健康ビジネスの連携・融合
25	農商工連携・6次産業化プロジェクト	農商工連携による地場産品の6次産業化

2 コアプロジェクトの内容

総合的な取り組み

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①スマートウェルネスみしまの総合的な推進
- ②無関心層をも取り込む健幸づくりの総合アプローチの実施
- ③市民・NPO・事業者・行政の協働による具体的な取り組み

No.1 健幸マイレージ

■コアプロジェクトの目的

- ・スマートウェルネスみしまの「健康づくり」「いきがい・きずなづくり」「地域活性化・産業振興」の3つの領域での活動を網羅するポイントカード制度の実施により、その取り組みの周知を図るとともに、ポイントを貯めることを通じて市民の「健幸度」を向上し、さらにまちの健幸度の向上（地域活性化）を図ることを目的とする。

■コアプロジェクトの内容

- ・スマートウェルネスみしまの3つの領域における活動にポイントを付加する制度。収集したポイント満了で、抽選により健康づくりに寄与する景品を進呈する。
- ・ウォーキングや日々の健康づくり、ボランティア活動は、自己申告にてポイント記入。
- ・指定施設の利用やイベント参加は、スタンプを押印。

■期待される効果

- ・市民が楽しみながらポイントを貯めることを通じて、活発な日常生活の実現につながる。
- ・スマートウェルネスみしまの幅広い取り組みに対する市民の理解が深まり、“健幸”の輪が広がる。



No.2 モバイルで健幸まち歩き

■コアプロジェクトの目的

- ・急速に普及が進むスマートフォン向けに、市民の健康づくりと地域活性化を目的とした三島市独自のアプリを開発する。
- ・健康づくりのウォーキング支援機能に、まちの観光情報・クチコミ情報の発信機能を統合し、健康づくりと地域活性化の相乗効果を狙う。

■コアプロジェクトの内容

- ・ワークショップ等で出されたアイデアを活かし、誰もがウォーキングや街歩きを楽しめるスマートフォンアプリを開発するとともに、多くの市民・観光客に利用してもらうためのプロモーション活動を行う。

～開発アプリのイメージ～

【健康づくり支援機能】

- ・ 距離、消費カロリー、踏破状況、メモリー機能
- ・ ウォーキング年間ランキングの発表

【目標設定・進捗管理機能】

- ・ 総歩行距離やチェックポイント制覇など歩く励みとなる目標設定・進捗管理機能

【まち歩きの楽しさを広げる機能】

- ・ 観光情報の表示、既存観光マップの整理
(観光各種、巨樹マップなど)
- ・ モデルコースガイド機能・コース作成機能
- ・ お気に入り投稿機能 (旬の花・緑、店舗情報など)
- ・ SNS との連携機能



■期待される効果

- ・ 市民向けと観光客向けの双方の情報がシンクロすることで、健康づくりと地域活性化の相乗効果が期待できる。
- ・ 市民が自由に口コミ情報を投稿できることにより、広がりや深みのある情報の集積と、鮮度の高い情報発信が可能となり、魅力あるまちづくりをサポートする環境づくりが図られる。

No.3 協働のまちづくり事業提案コンペ

■コアプロジェクトの目的

- ・ 民間の創意工夫をスマートウエルネスみしまの取り組みに反映し、取り組みの充実を図るとともに、市民・NPO・事業者と行政の協働によるまちづくりを推進する。

■コアプロジェクトの内容

- ・ 各種団体・NPO・事業者などから、スマートウエルネスみしまをはじめ、地域の絆づくり、ガーデンシティみしまなど市の重要施策における事業提案を募集する。
提案された事業については、コンペ形式での審査を経て、優秀提案者に補助金を交付することにより、提案者の取り組みを支援する。

【事業例】

- ・ 食や運動・スポーツによる健康づくり、ウォーキング普及企画 など
- ・ いきがい・きずな創出、コミュニティ再生、女性・高齢者の雇用促進 など
- ・ 花・水・緑のまちづくり、ボランティア活動支援策、中心市街地活性化 など

■期待される効果

- ・ コンペ及び提案事業実施のプロセスを通じて、市民にスマートウエルネスみしまの意義や目的の周知が図られる。
- ・ 市民自らが考え実行する協働のまちづくりの機運が高まる。

みんなで健康づくり

<健康づくり：市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくり分野>

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①わかりやすい情報提供と健康づくり意識の浸透
- ②健康づくり無関心層の取り込み
- ③健康寿命の延伸

No.4 健康づくり施策の見える化

■コアプロジェクトの目的

- ・各部署がそれぞれ提供してきたイベント・講演会・講座等、健康づくりに関する情報を一元化して情報発信することで、市民のヘルス・リテラシー（健康に関する情報を吟味し行動につなげる能力のこと）の向上を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・市、関係団体（医師会等）の健康づくりに関する講座や講演等の情報を一元化し、情報誌などにより市民へ情報提供を行う。
- ・市民ポータルサイトやSNS等を活用し、気軽に健康について相談できる仕組みを作る。

■期待される効果

- ・市民が興味のある情報に容易にアクセスできる環境の構築を通じて、健康づくりにつながる機会創出を図る。
- ・事業・テーマの重複を避けたり、日程の調整を図ったりと、組織・団体の枠組みを超えて、より効果的な健康づくり事業の実施ができる情報の共有化が図られる。

No.5 健康づくりイベントの開催

■コアプロジェクトの目的

- ・健康づくり団体の活動のPRの機会を創出し、「スマートウェルネスシティみしま」の取り組みを、市民一人ひとりに浸透させていく。また、庁内各部も参加し、「スマートウェルネスみしま」に関係する取り組みをPRする。

■コアプロジェクトの内容

- ・NPO・事業者等の活動紹介、情報交換の場づくり
- ・庁内各部の「スマートウェルネスみしま」の取り組み紹介など

■期待される効果

- ・団体相互の交流を通じて連携が促進され、協働によるスマートウェルネスみしまの取り組みに広がりが見られる。
- ・職員の意識改革が図られ、庁内連携がより緊密化する。



No.6 出張！健幸鑑定団～スマート健康チェックキャンペーン～

■コアプロジェクトの目的

- ・不特定多数の市民が集まるイベントや集客施設等における健康づくりキャンペーンを行うことで、健康づくりに無関心な市民の意識啓発を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・市の保健師・栄養士等がイベント・集客施設に出張し、啓発事業を展開する。

【想定場所】

- ・商店街、ショッピングセンター、スーパー、ドラッグストア、金融機関等

【実施内容】

- ・血圧・骨密度・肺年齢等の健康チェック、健康・栄養相談、禁煙相談、健診受診勧奨など



■期待される効果

- ・健康づくりに対する無関心層へ直接訴えかける機会の創出が図られる。
- ・各種健康測定の実施により、市民が自身の健康状態に関心を持つ契機となり、健康づくりの動機づけが図られる。

No.7 科学的根拠に基づく個別健康支援プログラム

■コアプロジェクトの目的

- ・科学的根拠に基づいた、効果的で継続支援が可能な健康運動プログラムを導入し、効果検証と分析を通じて、健康づくり事業の成果の「見える化」を実現する。

■コアプロジェクトの内容

- ・体力・健康状態等に応じて生成される個別健康づくり支援プログラムを導入する。
- ・団塊の世代を中心とした年齢層の生活習慣病予備群を主な対象に継続的な支援を図る。
- ・週1回の集団指導を3か月タームで実施し、体力・健康状態を逐次チェックし、効果検証を図るとともに、実施状況を広報みしま、HP等で公表し、啓発につなげていく。

■期待される効果

- ・健康づくりに元々関心のあった層に単発で実施され、効果検証も十分図られてこなかった健康づくり事業が、効果の見える化が可能となるとともに、より実効性のあるものに転換される。

No.8 大人の食育プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・女性の低体重（やせ）問題や偏食対策として、心身の健康づくり、生活習慣病予防、介護予防の観点から「大人の食育」に重点を置いた食育推進を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・子育て世代や、これから結婚する若年層及び単身者など、特にアプローチが必要とされる層に訴える「大人の食育」の企画を立案・実行する。

■期待される効果

- ・食や健康づくりに関心の薄い層への働きかけにより、正しい食生活の普及が図られ市民の健康度がアップする。

ウォーキング・スポーツの環境づくり

＜健康づくり：市民総参加で健康寿命を延ばす健康づくり分野＞

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①ウォーキングに関する「集約された」情報提供
- ②無関心層へのアプローチ
- ③ウォーキングと観光振興の融合による相乗効果

No.9 ウォーキング情報発信プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・ウォーキングに関する様々な情報を集約し、発信することでより市民に分かりやすい情報提供を行い、ウォーキングの普及・啓発と定着化を図る。

■コアプロジェクトの内容

①ウォーキングに関する様々な情報の提供

- ・市内に5か所ある健康づくりコーナーを情報拠点に情報提供を行う。
- ・開催されるウォーキングイベントの一覧（隔月程度）、コースマップ、見どころ（花の開花状況など）

②WEB・広報を利用した紹介

- ・団体の紹介
- ・市民からの見どころの投稿 等

③ウォーキングレポートコンテスト

- ・ウォーキングに関する「感想・自慢・コツ」「新しいコース」などをコンテスト形式で募集し広報・HPで掲載



■期待される効果

- ・ウォーキングに関する情報が一元化することで、様々な切り口、付加価値を持つ四季折々のウォーキングイベントの存在が市民に広く周知され、ウォーキングのまちづくりが進む。
- ・日々の健康づくりとしてのウォーキングに新たな楽しみを提案することで、ウォーキング実践の継続支援につながる。



■ウォーキングマップ：北上地区（表）



■ウォーキングマップ：北上地区（裏）

No.10 スケールペイント

■コアプロジェクトの目的

- ・ウオーキング支援の仕掛けやスポーツに関係する遊び心のある仕掛けを道路や施設にペイントし、ウオーキングやまち歩き楽しみの提供を通じて、歩いて楽しい環境づくりを図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・歩道上や市民体育館等の公共施設にウオーキング、スポーツにまつわるペイントを施す。

【実施例】

- ・歩くスピードや歩幅の目安
- ・走り幅跳び、走り高跳びの世界記録 など



■期待される効果

- ・ウオーキングやスポーツに対する関心が誘発されるとともに、スポーツのまちづくりのイメージづくりが図られる。
- ・単調になりがちなウオーキングに視覚に訴える遊び心が加わることで、会話が生まれるなど、楽しく歩ける場と環境づくりにつながる。

No.11 ウオーキングプラスワン

■コアプロジェクトの目的

- ・各種団体との協働や広域連携により、四季折々の様々な付加価値を持ったウオーキングイベントが市内各所で開催されるまちづくりを進め、市民の健康づくりと地域活性化を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・無関心層対策として新規イベント、既存イベントに健康的視点を取り入れる。

①多様な付加価値があるウオーキング大会の開催支援

【実施例】

- ・「歴史」「ジオパーク」「環境」「ボランティア」「防犯」「きずなづくり」「世代間交流」など

②既存のまち歩きイベントへの健康的視点の導入

- ・観光などのまち歩きイベントに、消費カロリーの目安や健康情報を提供する。

■期待される効果

- ・いつもどこかでウオーキング大会が開かれているウオーキングのまちとしてのイメージづくりが図られる。
- ・イベント参加を契機に歩く楽しさに目覚め、日々の生活に歩行習慣を取り入れたり、ウオーキングによる健康づくりに取り組んだりといった市民が増加する。

いきがい・きずなづくり

<いきがいきずなづくり：生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくり分野>

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①いきがい・きずなづくりに関する情報の集約と発信
- ②いきがい・きずなのマッチング強化
- ③単発の事業に留まらない永続的な仕組みづくり

No.12 いきがい・きずなフェスティバル

■コアプロジェクトの目的

- ・いきがい・きずなづくりに向けた、人と人、人と団体、団体と団体が交流できる場を創出し、情報の共有化と相互理解を深め、連携・協力関係の構築を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・いきがい・きずなに関係するNPOや事業者などが一同に介するイベントを開催する。
- ・団体・人材紹介ブース、相談・商談ブース、講演会・研究会・PRコーナー、食のブース等を設置する。

■期待される効果

- ・イベント参加をきっかけにいきがいやきずなづくりの輪に加わる市民が増える。
- ・世代・性別を超えたいきがい・きずなづくりの体制整備の機運が高まる。
- ・団体相互の連携が深まり、新たな活動につながる。

No.13 いきがい・きずなづくり情報一元化プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・民間や市民団体なども含めた様々ないきがい・きずなに関するイベント・事業、人材などの情報を集約し、いきがいを求めている人に最適なきっかけを紹介し、結び付けていく。
- ・集約した情報は、SNS等を活用して交流を生み出し、新たなきずなづくりにつなげていく。

■コアプロジェクトの内容

- ・いきがい・きずなづくりを深めていくことを目的に、各種セミナーや活動団体等の情報を集約するとともに、ITを活用し双方向の情報提供を実施する。
なお、公衆無線LANの充実やモバイル端末機器の利用啓発などを行うなかで、ITと親和性の薄い世代も巻き込みながら、当該プロジェクトの広がりや推進を図っていく。

収集する情報…各種セミナー、活動団体等の事業、生涯学習指導者の人材情報等

発信方法…パンフレット、HP、SNS等

■期待される効果

- ・生涯学習、文化活動、地域活動、ボランティア活動などを、いきがい・きずなという切り口で再構築し、情報を集約することで、新たな連携の広がりや活動の深まりが生まれる。
- ・趣味等の目的でつながるコミュニティと地域コミュニティをつなぐことで、地域の課題解決に向けた新たな活動を生み出す環境づくりが図られる。

No.14 いきがい・きずなづくりコンシェルジュステーション事業

■コアプロジェクトの目的

- ・いきがい・きずなづくりに関する総合コンサルタント拠点（コンシェルジュステーション）の整備により、人と人、人と団体、団体と団体を結びつけるとともに、各種相談業務、人材育成事業を行い、市民のいきがいづくり、きずなづくりをサポートする。

■コアプロジェクトの内容

- ・コンシェルジュステーションには、相談機能やコミュニティ機能を設けるとともに、人材育成事業等、各種事業を実施する。

■期待される効果

- ・いきがい・きずなづくりに関する人と人、人と団体、団体と団体とのマッチングのコーディネートを図ることで、市民の社会参加のきっかけ創出や、団体相互の連携促進につながる。

No.15 「再」デビュープロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・団塊の世代を中心とした高齢者が、豊富な経験や知識を活かして活躍できる機会や場を創出し、本人のいきがいづくりと地域とのきずなづくりにつなげる。

■コアプロジェクトの内容

①地域「再」デビュープロジェクト

- ・地域におけるボランティア活動の機会を提供する。

②家庭「再」デビュープロジェクト

- ・「孫」をキーワードとして、家庭内での取り組みを支援するための講座を開催する。

■期待される効果

- ・高齢者の社会参加のきっかけづくりを支援することで、地域社会とのつながりを持つことが容易になる。
- ・仕事をリタイアした後の孤立・閉じこもりを防止できる。

No.16 女性と高齢者のチカラ活用プロジェクト～就労支援～

■コアプロジェクトの目的

- ・少子高齢化、人口減少の時代の到来により、労働人口が減少し、国の活力、経済活動への悪影響が懸念されるなか、これからの地域社会を支える労働力として女性と高齢者の積極活用を図るため、NPO等との協働による就労支援事業を展開していく。

■コアプロジェクトの内容

- ・相談業務やセミナー開催などを通じて、子育て世代や子育てがひと段落した女性の職場復帰支援や、高齢者の経験や技術を活かすなかでの様々な形態での就労のサポートなどを図っていく。

■期待される効果

- ・女性・高齢者の就労が実現することで、経済的な恩恵はもとより社会参加を通じた自己実現、いきがいづくりが図られる。
- ・地元企業としては優秀な人材確保が可能となり競争力の強化が期待できる。

歩いて暮らせるまちづくり

<いきがいきずなづくり：生涯を通じて多様な社会参加が可能なまちづくり分野>

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①安心して安全に歩くことができる基盤整備
- ②楽しく歩くことができる仕掛けづくり

No.17 目指せ！健幸！！安全、安心なまちあるき！

■コアプロジェクトの目的

- ・近年、全国的に歩行中の事故が多発するなか、市民が安心して歩くことができる安全な歩行者空間を確保するため、歩道整備を進める。
- ・地域の実情に応じた歩道整備を進めることで、まち歩き（ウオーキング）環境の整備はもとより、歩いて暮らせる地域づくりを促進する。

■コアプロジェクトの内容

- ・地域住民や学校等と連携し、地域のコンセンサスを得ながら危険箇所を整理し重点整備を進める。また、地域との協働により一定エリアで速度制限を行う「ゾーン 30」の設定について、公安委員会等と連携を図る中で検討する。

- ①危険箇所の整理…地域住民や学校と危険箇所についての検討
- ②整備の実施…検討した危険箇所を順次整備



■期待される効果

- ・健康はもとより福祉や環境などの視点からも求められる、歩いて暮らせるまちづくりが進む。
- ・歩行者が増えることで、まちかどでの交流も増加し、ソーシャルキャピタルの醸成に繋がる。

No.18 快適な環境でレッツ街歩き！

■コアプロジェクトの目的

- ・安心してまち歩きができる環境づくりと、まちのイメージアップの一環として、公園や観光施設のトイレを改修する。
- ・きれいなトイレ、利用しやすいトイレをつくり、市民や観光客のまち歩きを促し、健康づくりと地域活性化に繋げる。

■コアプロジェクトの内容

- ・市内の既存公衆トイレを利用しやすい、快適なトイレにするため、改修・清掃強化を行う。

①既存トイレの改修

- ・観光施設、公園など利用者が多いトイレを、景観にマッチした明るい、匂わない、清潔、安全という社会のニーズに合ったトイレとして改修する。

②既存トイレの維持管理

- ・公園トイレの美化清掃を強化するなど、維持管理を徹底する。また、利用者の癒し、安らぎの空間となるようなトイレそのものの機能以外の付加価値を施す。

■期待される効果

- ・快適に利用できるトイレが市内に点在することによって、ウオーキングやまち歩きのしやす

い環境づくりにつながる。

- ・「まちの顔」とも評される公衆トイレを美しく保つことで、特に女性の視点からのまちに対する好イメージの醸成効果が期待できる。

No.19 歩道も健幸バロメーター

■コアプロジェクトの目的

- ・ウォーキングコース上の歩道に、距離、消費カロリー等を表示することで、歩く習慣のない市民がウォーキングを始める動機づけを図るとともに、歩いて楽しいまちづくりに繋げる。

■コアプロジェクトの内容

- ・現在4地区16コースあるウォーキングモデルコースや沢地川・大場川等河川沿いの歩道上に「距離標」「消費カロリー」「カロリーを食事に換算した際の目安」などが示された案内サインシールを設置する。
- ・整備は段階的に進めるとともに、整備計画検討に市民参画を促し、ウォーキングのさらなる普及を図る。

■期待される効果

- ・案内サイン整備によりウォーキングマップを持たずとも、安全で見どころ豊富なコースをめぐることのできる環境整備が図られる。
- ・ポイントまでの距離感や消費カロリーの目安がわかるなど、歩いてみたいと思わせる仕掛けづくりにより、ウォーキング人口のすそ野拡大が図られる。
- ・案内サインがウォーキングのまちづくりのPR広告としての機能も担う。



No.20 公共交通の利便性向上・利用拡大プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・自家用車に過度に頼らずとも歩いて暮らせるまちづくりを推進するため、公共交通機関のより効果的な運行を目指し、その利便性向上と利用拡大策を検討する。

■コアプロジェクトの内容

- ・コミュニティバスの利便性向上のため、運行ダイヤや路線経路の最適化に向けた協議を行う。
- ・利便性が高いデマンド交通を運行する自治体に関する調査を進め、当市での導入の可能性を研究する。
- ・コミュニティバス・路線バス等の利用拡大のため、各種助成事業を継続して実施する。

【事業実施例】

高齢者バス等利用助成事業、高齢者免許返納支援事業

■期待される効果

- ・高齢者をはじめとする交通弱者の外出が促進され、社会参加と地域交流の機会が増える。
- ・公共交通の利用は、乗用車と比較して自然と歩く距離も増え運動量が増加し、健康づくりに貢献する。
- ・環境面からも低炭素なまちづくりへの寄与が期待できる。

活力・にぎわいづくり

<地域活性化・産業振興：持続可能な“健幸”都市づくり>

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①健康を切り口とした「にぎわい」の仕掛けづくり
- ②箱根西麓などの自然・環境・文化の特性を活かした新たな観光振興策の検討
- ③商店街・中心市街地の活性化策の検討

No.21 地産地消のスマートウェルめしプロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・安心・安全な食材（箱根西麓三島野菜、地元ブランド牛・豚）を使用したヘルシーメニューを通じて、健康になれるまちづくりを進める。また、食と健康のまちを市内外にPRし、地域活性化と観光振興を目指すとともに食材のブランド化を進める。

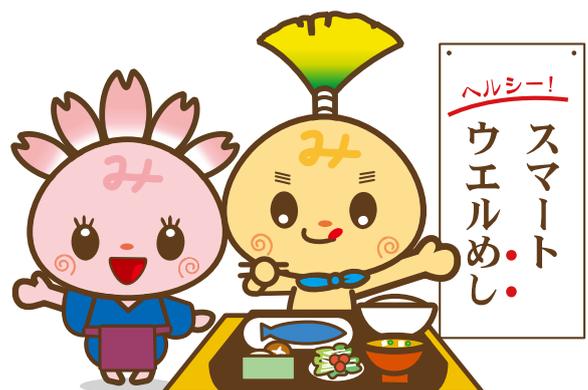
■コアプロジェクトの内容

- ・市内飲食店等で地産地消のヘルシーメニューを展開し、食と健康のまちを市内外にPRする
- ・地産地消のヘルシーメニューであるスマートウェルめし提供店の認定、提供店食べ歩きマップの作成、地産地消のスマートウェルめし弁当アンテナショップの設置、地場産品（食材、食器等幅広く）を使った店づくり支援などを進める。



■期待される効果

- ・健康づくりと地域活性化、まちづくりの相乗効果、波及効果が期待できる。
- ・地場食材のブランド化、高付加価値化が図られる。
- ・ヘルシー志向の特に女性の支持を集めることで、まちのイメージアップが図られ、品格あるまちづくりへの貢献が期待できる。



No.22 スポーツツーリズム

■コアプロジェクトの目的

- ・自然、地形、歴史、文化など既存の資源を利用したアウトドアスポーツなどのイベントを開催することで、交流人口の増大、地域経済の活性化などを図る。
- ・常設コースの設置でイベント時以外にも滞留人口を増やし観光振興を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・近隣市町との広域連携により各種スポーツイベントを実施する。

①伊豆マラソンの拡大

- ・一大イベントへ成長させるための運営組織の強化

②大吊り橋、フルーツパークなどの観光拠点や箱根の里をつなぐような新たなウォーキングコースの整備とイベントの開催

- ・大吊橋を拠点に箱根西麓をフィールドとして活用
- ・トレイルランニング・ウォーキングイベント

③サイクリイベントの実施

- ・箱根西麓ヒルクライム（三嶋大社～芦ノ湖畔）、伊豆一周サイクリング など

※事業の実施にあたっては庁内組織とともに日本スポーツツーリズム推進機構（J S T A）に加盟し情報収集を行う。

■期待される効果

- ・NPOや事業者との協働事業として実施することで、比較的ローコストで、全国にアピールできるイベントづくりが可能となる。
- ・飲食店、物販店、宿泊施設等への経済効果、波及効果が期待できる。
- ・スポーツのまちづくりを通じて、都市のイメージアップが図られる。
- ・レセプション、物販、宿泊等による経済波及効果
- ・ベースステーション（起点地）ならでの新たな産業創出の期待



持続可能なまちづくり

＜地域活性化・産業振興：持続可能な“健幸”都市づくり＞

■コアプロジェクトの目指すもの

- ①企業支援を総合的にコーディネートする仕組みづくり
- ②ニーズとシーズを連携・融合する場と機会づくり

No.23 産業支援ステーション「M-Rise ～未来図～」プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・企業の育成・支援、ビジネスの連携・融合、人材交流を目的とした産業支援の総合拠点を整備し、企業の競争力と産学官金連携の強化を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ①企業育成コーディネーター…ビジネスの連携・融合等の一括サービスを実現。
- ②経営コンサルタント派遣事業…市内企業の経営課題を相談できるコンサルタントを派遣。
- ③人財バンク…ベンチャー育成、企業支援を図るため企業OBなど市内のシニア人材を活用。
- ④ファルマバレー総合支援プロジェクト
…既存補助制度の積極活用をPR。企業のニーズに合わせ、より使いやすい制度として拡充。

■期待される効果

- ・ニーズ（市場）とシーズ（技術）のマッチング支援を図ることで、新規事業への参入を後押しし、地元企業の競争力強化につながる。
- ・技術、発想、熱意のある事業者を手厚く支援する体制づくりを通じて、高付加価値型企業の育成が図られる。
- ・「産学官金」のオール三島の力を結集した実効性ある産業振興の体制づくりが図られる。

No.24 医療健康ビジネスマッチング

■コアプロジェクトの目的

- ・医療・介護現場や市外企業のニーズと地域企業の技術を結び付け、医療健康分野への参入を支援し、地域経済の活性化を図る。

■コアプロジェクトの内容

- ・「医看工連携・ミシマ」の機能強化を図り、市内医療機関との連携により医療・介護現場でのニーズを掘り起こし、市内企業の商品開発につなげる。
- ・ビジネスマッチングツアーを実施し、県内外の大手企業へ市内企業を紹介する。
- ・一般紙・業界紙・専門誌へアプローチし、市内オンリーワン企業を紹介してもらうなど、隠れた技術力、商品力のある企業の掘り起こしを図り、ビジネスにつなげる。

■期待される効果

- ・21世紀の成長分野と言われる医療健康産業に対する支援体制が強化され、地元企業の新規事業への取り組みや新たな企業立地を図る基盤整備が図られる。

No.25 農商工連携・6次産業化プロジェクト

■コアプロジェクトの目的

- ・箱根西麓三島野菜をはじめとする農畜産物、観光資源、企業の技術・ノウハウなどの地域の資産を結びつけ、積極的に活用することで、付加価値の高い商品・サービスを生み出し、儲かる農業と産業振興、地域の活性化を実現する。

■コアプロジェクトの内容

- ・農商工の“ビジネスマッチング”を図り、箱根西麓三島野菜等の地場産品や地域資産を活かしたオンリーワン商品・サービスの開発及び販売促進を支援する。(M-Rise 再掲)
- ・伊豆フルーツパークのオープンや三島青果市場の移転等を活かし、食や農と連携した観光事業（アグリツーリズム）による地域活性化を図る。

■期待される効果

- ・地場食材のブランド化、高付加価値化が図られる。
- ・“物語性”の高い商品開発を図ることで、新たな三島を代表する名産品が生まれる。
- ・食や農をキーワードとしたまちづくりが進むことで、地域活性化と産業振興が図られる。



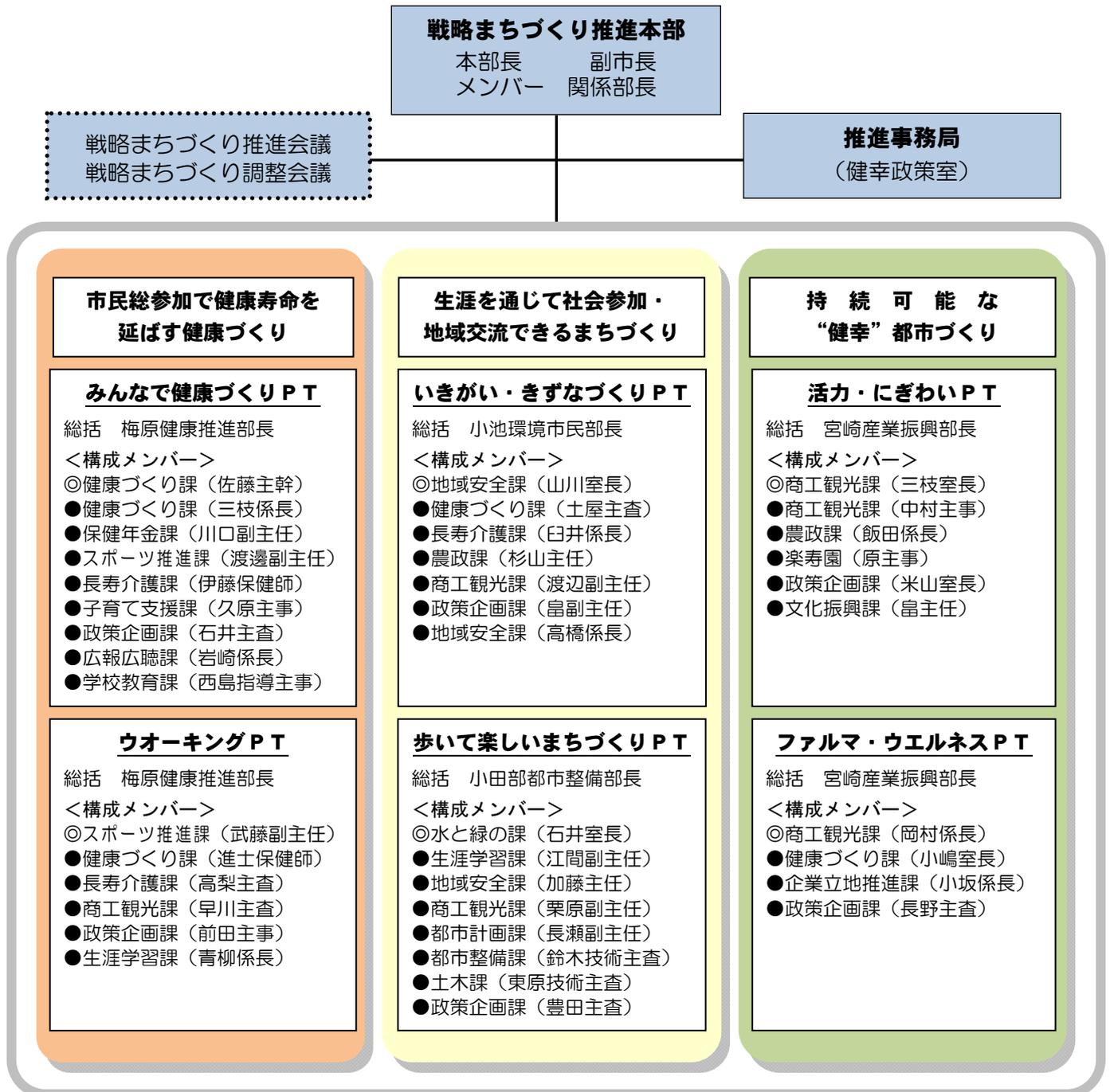
資料編

スマートウェルネスみしま重点プロジェクトチームについて

1. 設置趣旨

スマートウェルネスみしまの推進に向けた庁内連携と新規事業提案を図るため、関係各課の若手・中堅職員を中心とした3領域、6分野のプロジェクトチームを立ち上げ、既存事業の整理・新規事業（コアプロジェクト）の検討を行いました。

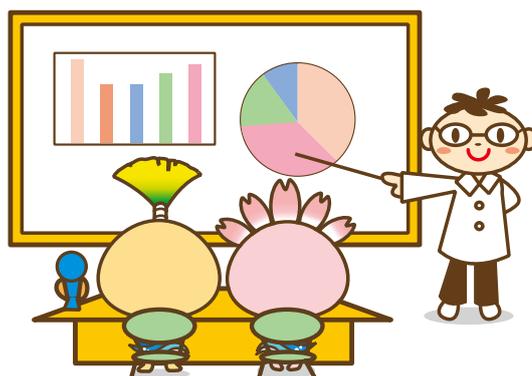
2. 構成メンバー（◎はリーダー）



3. 検討経過

日付	会議名	内容
4月20日	第1回 全体会議	・各領域の課題整理と検討方針について
5月14日～	第1回 個別会議 (プロジェクトチームごと)	・新規事業提案に向けた検討
6月4日～	第2回 個別会議 (プロジェクトチームごと)	↓
7月20日	第2回 全体会議	・中間発表 ・28の新規事業を提案
7月21日～	事業に関する調整	・新規事業提案に関する関係各課との調整
8月1日～	第3回 個別会議 (プロジェクトチームごと)	・関係各課との調整結果を踏まえ提案内容の修正等
9月3日～	第4回 個別会議 (プロジェクトチームごと)	↓
9月～10月	事業に関する調整	・関係各課との最終調整
10月3日	第3回 全体会議	・最終発表 ・25の新規事業を提案（中間発表から一部整理統合）

*必要に応じプロジェクトチームごと臨時会議を開催



平成 21 年 11 月 23 日

Smart Wellness City 首長研究会・発起人会共同宣言

本プロジェクトは、「ウエルネス(=健幸:個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること)」をこれからの「まちづくり政策」の中核に捉え、健康に関心のある層だけが参加するこれまでの政策から脱却し、市民誰もが参加し、生活習慣病予防及び寝たきり予防を可能とするまちづくりを目指す。そのために、科学的根拠に基づき市民の健康状態の改善が実証された以下の健康まちづくり政策を、自治体間の連携によって3年を目処に推進していこうとするものである。

- 1) 健康に対する望ましい生活を啓蒙する教育の充実
- 2) 健康への貢献も視点に入れたまちの美的景観及び歩道や自転車道、及び公園整備の推進
- 3) 健康への貢献も視点に入れた都市交通網及び商店街の整備
- 4) 夜でも歩ける治安の維持・強化
- 5) 健康づくりの視点からも地産地消ができる農業等の推進
- 6) 地域での健康づくりネットワークを支援する、先端的健康サービス産業の育成

これらにより、世界で未だ確立されていない「少子高齢・人口減社会」の克服を可能とするまちづくり「Smart Wellness City」の具体策を創造・構築することを目的とする。

【共同宣言】

我が国の超高齢・人口減社会によって生じる様々な社会課題を、自治体自ら克服するため、この危機感を共有する首長が集結し、健幸をこれからのまちづくりの基本に据えた政策を連携しながら実行することにより、3年を目処に最新の科学技術や科学的根拠に基づく持続可能な新しい都市モデル「Smart Wellness City」の構築を目指すものである。

趣旨

これまで自治体で行われてきた疾病予防のための健康政策は、担当部局に閉じた公衆衛生の視点のみで行われてきた例が多く、市民全体に浸透する多面的な健康政策は、ほとんど行われてこなかった。この状況を打破しない限り、今後ポディーブローのように効いてくる「少子高齢・人口減社会」の進展により、地域の活力が低下していくことは、多方面の分析からも明らかである。

また、我々の最近の研究結果から、地域における予防施策を拡大し、定着化していくためには、これまで予防施策における中核であった健診によるスクリーニング、指導者の資質向上及び行動変容プログラムの開発一辺倒のみでは、課題解決が困難であることが示されている。

なぜならば、①健診からスクリーニングされた対象者はなかなか保健指導や介護予防事業に参加しない。②自治体が中年や高齢者に対して実施している健康教室への参加者は、健康度は比較的良方で、医療費も低い傾向であることが示されているからである。

さらに、最近都市のあり方(交通網や、歩道や公園整備、美的景観)そのものが生活習慣病の発症に一定の影響を及ぼすことが科学的にも示されている。これまでの担当部局単独での健康づくり政策推進では限界があり、生活習慣病の克服が困難であることは明白である。

これらの課題を解決していくには、部局を超えた連携によって実現する Smart(賢明、快適、エコ、美しい)・Wellness(健幸、安心)・City(まちづくり)のベストプラクティスが必要であると考え。今後、今回参加自治体が自主財源でこれらに取り組むと同時に、国レベルの取組みに発展させていくことを目標とする。

主要取組テーマ

1. Smart Wellness City ビジョンの策定。特に、何が Smart なのか？21世紀型 Smart Wellness City の理想像の確立
2. 市民が自然と健康活動をしたくなる都市インフラ(環境、道路、公園、交通等も含む)のあり方の検討
3. なかなか行動変容を起こせない市民を健康づくりに誘導するための新しい社会技術の開発
 - 1)ウエルネスコミュニティポイントを利用した市民誘導策
 - 2)科学的なマーケティング等を活用した広報戦略
 - 3)市民の望ましいヘルスリテラシーの育成
4. より多くの市民が参加でき、民間とも協働しながら、行政コスト的にもサステナブルな「ウエルネステーション」の成立
 - 1)地域の医療機関、薬局等との地域連携
 - 2)今後増加する定年退職者の受皿としての機能も併せ持つコミュニティビジネスの創生
5. 「Smart Wellness City」を構築していくための市職員の高度人材育成(自治体職員の合同研修会 & 研究会の実施)
6. 2～5の課題における科学的検証と指標設定

実施事業

1. 年2回の研究会の実施(各自治体持ち回り)
2. Smart Wellness City 大賞の創設
3. 国等への政策提言

発起人(順不同)

福島県 伊達市長	仁志田 昇司
新潟県 新潟市長	篠田 昭
新潟県 三条市長	國定 勇人
新潟県 見附市長	久住 時男
茨城県 つくば市長	市原 健一
岐阜県 岐阜市長	細江 茂光
兵庫県 豊岡市長	中貝 宗治
香川県 善通寺市長	宮下 裕
熊本県 天草市長	安田 公寛
筑波大学大学院人間総合科学研究科 准教授	久野 譜也(幹事)
慶応大学経済学部 教授・厚生労働省非常勤顧問	駒村 康平
筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授	山縣 邦弘
特定非営利活動法人 地域交流センター 研究員	浜田 靖彦

※ 適宜、発起人会員が認める首長・学識者を会員として追加する。

■Smart Wellness City 加盟市 14 府県 21 市 (H24.11.22 現在)

福島県伊達市、新潟県新潟市、三条市、見附市、妙高市、栃木県大田原市、芳賀町、茨城県つくば市、牛久市、取手市、埼玉県さいたま市、志木市、千葉県睦沢町、岐阜県岐阜市、大阪府高石市、兵庫県豊岡市、熊本県天草市、鹿児島県指宿市、福岡県飯塚市、大分県豊後高田市、**静岡県三島市(H23.10.27 加盟)**